

令和五年度 奈良県租税教育推進連絡協議会長賞

税金と暮らし

奈良県立商業高等学校 一年 狭間 柚歩

私は税金に関するニュースをよく耳にします。その内容は消費税が引き上げされ、非難する大人たちや、私たちが大人になった頃「とても苦しい思いををすると思う、こんな社会でごめんなさい。」と、書かれた看板を持ち私たち学生に謝罪をしている人などです。このようなことから私は税金に対してあまり良い印象は持っていませんでした。なぜなら税金は私たちの将来を暗くするものなんだ、と考えるようになってしまったからです。

私は新しいことを学ぶのが好きです。なので学校という一時的な公共の場や図書館のように誰でも使える公共の施設などは私たちにとって素晴らしく、とても魅力的な場所です。最近、高校の授業料が税金で無償化になったらしく、母が喜んでいる姿を目にしました。その時、心と一つの疑問が湧きました。もし税金がなければ私は今、満足に学校に通えているのだろうかということです。気になり早速インターネットで調べてみると、私は税金のお陰で何不自由なく安全な暮らしを得ているんだと思うようになりました。なぜなら税金がなければ学校で使用する教材や机、椅子などは全て自己負担になってしまい、多額なお金が必要となるからです。そうすると満足に学校に通えない人が増えてしまい、必要最低限とした知識すらも得られず学校に通えていた人とそうでなかった人での格差が生まれてしまいます。図書館の建物や椅子や机、貸し出すための本なども税金で賄われています。もし税金がなければ読みたい本を手軽に読むこともできず、ここでもお金に余裕がある人となない人での格差が生まれてしまいます。私が今、綺麗に整備された道を歩けるのも税金のお陰です。税金がなければ整備されることもなく、危険な道を通ることになってしまいます。最近ではコロナの対策にも税金が使用されていました。私は税金があるからこそ社会は成り立っているのではないかと思います。税金は私たちが安全かつ快適に暮らすためには必要不可欠なものです。まず税金に対して頭ごなしに否定から入るのではなく、受け入れ感謝することが大事なのではないか、また、共に手を繋ぐべきなのではないかと思いました。税金とは私たちが安全な暮らしを得るための重大な役割を担っていると、身にしみて感じました。